



いのきちさん

井の頭

吉祥寺

8号

2013年1・2月号

2013年(平成25年)1月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上油倉 1-12-17
株式会社文伸 気付
電 話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO法人みたか都市観光協会
武蔵野市観光推進機構
●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと4年4ヵ月

井の頭恩賜公園開園100周年記念ダウンタウン新聞

INFORMATION 2013年1月~2月

井の頭自然文化園

●**巳年クイズラリー「あしウォッチング」**
2012年12月22日(土)~2013年1月6日(日) 各日先着200名
1月2・3日は、すべてを巡った方にオリジナル記念品をプレゼント。

●**新春 園長どうぶつえんガイド**
2013年1月2日(水)、3日(木) 各日11時30分~12時

●**新春くるみくじ**
2013年1月2日(水)、3日(木) 各日12時~ 各日先着100名

●**「琉神」による琉球獅子舞**
2013年1月2日(水) 11時~、13時~ 各回20分程度

●**ギフトショップから「干支ピンバッジ」のプレゼント**
2013年1月2日(水)、3日(木)

両日とも、園内ギフトショップで商品をお買い上げの方先着500名に、特製「干支ピンバッジ」(非売品)を差し上げます。



●**年間パスポートキャンペーン**
2013年1月2日(水)~1月31日(木)

園内の売店で年間パスポートをご提示いただくと、5%割引!
(一部、適用除外商品あり)

●**水生物館特設展示「井の頭池のむかし今これから」**
2012年11月16日(金)~2013年2月11日(月・祝)

年末年始の休園日▶12月29日(土)~1月1日(火・祝) 2013年は1月2日(水)から開園します。

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

●**武蔵野吉祥七福神めぐり** 1月1日(火・祝)~10日(木)

詳しくはホームページをご覧ください。http://inokashirapark100.com/index.html

井の頭かんざつ会

●**第92回「冬鳥探鳥会」** 1月27日(日) 10時~12時

事前申し込みが必要です。
詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

いのきちNEWS

『いのけん』試験に391人が挑戦

第1回井の頭公園検定(いのけん)試験が、2012年12月2日に三鷹会場(三鷹産業プラザ)と武蔵野会場(武蔵野会堂)の2カ所で行われました。応募総数414人の内、試験に挑戦したのは391人。山口県、大阪府、静岡県からの受験者もいましたが、三鷹市と武蔵野市で69.6%と約7割は地元在住でした。採点結果はすでに『いのけん』のHPで発表されましたが、2級が214人3級が168人という、実行委員会の予想を超える好成績でした。認定者には、特製の認定バッジと認定カードが授与されました。



三鷹会場(三鷹産業プラザ) 午前の部 試験会場

アートマーケットと ファンアーティストな人々



「雨の日のサンキャッチャーも
すてきですよ」と言う
sorahugさん

sorahugさん(サンキャッチャー作家)

日光が当たるとキラキラとした虹色の光を拡散する、多面カットが施されたクリスタルガラスを使って、sorahugさんはインテリア雑貨の「サンキャッチャー」を作っています。落葉後の井の頭公園の木の下では、サンキャッチャーが受ける光が増し、より遠くまでその輝きが届きます。

一説には、サンキャッチャーは北欧が起源で、短い日照時間に光を楽しむためのもの。日本では風水グッズとして定着しているために、デザインが二の次になっていることも少なくありません。アクセサリーのデザイナーだったsorahugさんは、ガラスや木、天然石と組み合わせて、窓辺にじっくりくデザインに仕上げられています。

「私、空と虹が好きなんです。サンキャッチャーで虹と、窓の向こうの空を眺めてもらいたい。父子、老夫婦など、虹に見とれる人は老若男女を問いません。「30分ぐらい悩んで選ぶ人もいますよ」とsorahugさんは言います。



七色の光が広がる
サンキャッチャー

小田原 潔 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケットは、主に土日祝日に開催しています。

今月の はな子

高齢はな子は寒さが大敵

記録的な暑い夏を乗り越えたはな子ですが、一番心配される冬を迎えました。昨年もこの時期に、今まで食べていた餌を急に食べなくなったかと思うと、これまで食べなかった物を良く食べたりと、体調に異変を生じました。もともとゾウは消化器系のトラブルが多いのですが、まして高齢のはな子は胃腸の動きが弱くなっているようです。しかし現在は便の状態も良く食欲も有り、天気の良い日は日溜まりでのんびりと過ごしています。とはいえ高齢のはな子にとって寒さは大敵です。本格的な冬を迎えて観覧時間を午後3時で終了とさせて頂いています。また、雨や雪など天候の状況によってはさらに早めに観覧時間を終了する事がありますのでご理解ください。



飼育展示係 室伏三喜男

井の頭公園の生き物たち

その8 ツグミ

井の頭かんざつ会 田中 利秋

井の頭かんざつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。



代表的冬鳥

見かける機会が多く、季節を感じさせてくれる、という意味で冬鳥の代表です。シベリアなどで繁殖し、晩秋に群れて日本海を越えて渡って来ます。サハリンなどの島唄に由来するルートもあるそうです。渡来数が多い上に行動範囲が広く、開けた場所を好むので、公園内に限らずよく見かける鳥です。寒さにつむいて歩いていても、「クイッ、クイッ」と軽快に鳴いて飛んでいくツグミに気づきます。全長は約24cm、派手な色彩はありませんが、模様それぞれ個性があり、なかなかオシャレです。

木々に実が付いている間はそれを食べ、その後は地上で採食します。公園の茂みで、くちばしで落ち葉をはねのけて虫を探しているのを見かけることもあります。真骨頂はやはり開けた場所での採食です。前のめりにツツツと走ってはピタリと止まり胸を張る、という動作を繰り返しながらミミズや昆虫を探します。愛らしいしぐさですが、胸を張るのは、できるだけ視線を高くして虫の居場所や周囲の安全を確認するためでしょう。そんなツグミには受難の時代がありました。尾根筋にかすみ網を張り、渡って来た群れごと捕獲する猟が行われたのです。当時の捕獲数は一説には年間数百万羽とも言われます。1947年に捕獲が禁止された後も密猟が続きました。今後の脅威は、開発や地球温暖化による繁殖地の変化でしょう。渡り鳥にとっては、繁殖地も滞在地も、渡りのルートも健全でなければなりません。井の頭では4月にはほぼいなくなりますが、5月まで残っているものもいます。渡去前の晴れた日、ツグミがさえずりの片鱗を小声でつぶやいていることがあります。繁殖地での本格的なさえずりを聴いてみたくて英名や学名で動画サイトを検索してみたのですが、そのような動画は見つかりませんでした。繁殖地にはまだITが及んでいないのかもしれないかもしれません。でも、地球温暖化の影響はすでに及んでいるのではないのでしょうか。



「いのけん」講座 答え合わせ

- 問題1
4) 染井吉野
- 問題2
3) 名所江戸百景

どちらが難しく、どちらが易かったですか？
ちなみに三鷹会場午前部では、問1の正答率は100%、問2の正答率は7%でした。詳しくは公式問題解説集をご参照ください。

井の頭池では11月の中旬からカイツブリが1羽見られるようになりました。なんとか定着したようですが、潜水を繰り返してもなかなか魚を捕れないようなので、安泰とは言えない状況です。同じくカイツブリがいなくなった善福寺公園の上池には、12月5日現在、カッパルが定着しています。二羽で巣材を運ぶ行動も見られました。善福寺池では外来魚の駆除が行われていないので井の頭池よりブルギルが多く、カイツブリの冬の餌となる稚魚も多いのではないかと思います。仲良く寄り添っていたカッパルが突然、写真の姿勢になりました。何ごとかと上空を見ると、大きな鳥アオサギが旋回しているのでした。アオサギがカイツブリの成鳥を襲うことはありますが、彼らは驚や鷹ではないかと警戒したようです。カイツブリはこの姿勢のまま水中に沈み身を隠すことができます。自分が餌にならないように、野生の生き物は常に周囲に気を配っています。



警戒姿勢

井の頭かんざつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

08 善福寺池

「楽園はよみがえるか!」



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカッパルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

絵と文 せのうさちこ

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。

地元民の昭和の記録が、地域の記憶を次世代につなぐ。

井の頭公園でスケート？ スケート場があったの？...と一瞬思わせる左の記事ですが、連日の雪と寒さで井の頭公園駅下のプール跡が凍り、「スケーター連」で賑わったという話題です。井の頭5丁目にも在住の土屋恂さんの投稿です。1丁化が進んでも、昔を知る手がかりの多くは紙媒体。ぜひお手に取って見て下さい。



土屋恂さんの新しい写真集「井之頭昭和の街並み」。三鷹市図書館が「地域資料」と認定。



写真はスケーターでにぎわった井之頭プール跡。日報連合員土屋恂氏撮影。し、スケーター連が押しかけスツテンと転ぶ妙味や、巧みな滑走を楽しんで終日にきわっている。

「ころぶ妙味」と題するこの記事の掲載は、昭和29（1954）年2月1日。調べると、その数日、都内には積雪約30センチ、上野の不忍池や練馬の石神井池も氷結。記録的な寒さだったのです。この記事を投稿した土屋恂さんは昭和2（1927）年生まれで、昭和9年からずっと井の頭公園から徒歩5分ほどの家にお住まいです。カメラが趣味だったお父さんの手ほどきで、小学生の頃から写真を撮っては自宅でプリントするようになったそうです。戦後は国鉄の鉄道技術研究所に勤め、定年まで研究職一筋。そのかわら折々に写真を撮り続け、昭和29年から30年にかけて毎日新聞社の「日本報道写真連盟」に会員登録し、休日に地元の話題をカメラに収めて提供していました。その一つがこの「ころぶ妙味」です。

土屋さんは撮り貯めた写真をまとめて平成16（2004）年に『吉祥寺消えた街角』(河出書房新社)を出版され、私はその取材が縁で「懐かしの吉祥寺 昭和29・40年」(2011/ぶんしん出版)を企画し、編集・執筆を進める過程で昔の井の頭や吉祥寺界隈のエピソードをたくさん聞かせていただきました。「二・二六事件の日は公園の周辺の坂道で子どもたちがスキーをしていた」と聞いてからは、歴史的なクレーダー事件と井の頭のどかなスキーの情景が私の記憶から同時に取り出されるようになりました。その土屋さんが、去る11月に『井の頭 昭和の街並み』(けやき出版)を出版されました。「目をつぶると浮かび上がってくる」という風景を描いた水彩画や地図も織り込まれた写真集です。御年八十五、趣味を活かして過去の記録を残す。未来世代への素敵なプレゼントです。

安田知代 (やまだともこ) 編集者、ライター。井の頭公園「まるごとガイドブック」(懐かしの吉祥寺 昭和29・40年) 編集。

私と井の頭公園 その8

「自然林を後世に残すのが我々の義務」 地域住民の力で公園となった第二公園

大竹 茂 (山梨県笛吹市在住)

井の頭恩賜公園第二公園は、小島の森の東側、玉川上水をはさんだところに位置する1.7ヘクタールの公園で、名前のとおり井の頭恩賜公園に含まれている。その公園の誕生を当時の井之頭町会副会長の太田茂さん(74歳)に聞いた。

あそこはね、杉山産業化学研究所があってね、豊年製油の杉山社長が作ったんだよ。だから杉山研究所なんだ。その研究所跡地が三井不動産に売却されたんだけど、某国大使館になるとか高級マンションが出来るとか、いろいろうわさが出たね。大使館が来ればそこは治外法権になるし、マンションになれば貴重な自然林は切られちゃうし、どちらにしてもこれは大変だということになって、町会で問題になったんだよ。売却が1972(昭和47)年だからちょうど40年前の話だ。そこで、井之頭町会(当時は土端一暢会長)(注1)が先頭になって、「立派な自然林を後世の人々に残すのが我々の義務だ」と、東京都に公園緑地として残して欲しいと運動をしたんだよ。その成果が第二公園として残った。そりゃ簡単なことじゃないよ、住民同士でもいろいろあった。でも町会が奔走して住民の意見をまとめたんだよ。例えば、建物を壊したときに出る廃棄物を運ぶ運搬車を通る道、これと同じ道にしないで、今日はこの道、明日はこの道って決めてね。そういうことを一つひとつ提案して説得したんだよ。

地域のことを町会が先頭になって考えるというのはすごいだろう。井之頭町会の伝統かもしれないな。井之頭新報(注2)も続いているし。今、こちら(山梨県笛吹市)に来て、東日本大震災の被災者支援のボランティアをやっているけど、僕は井之頭町会と、地域社会のあるべき姿を教えられたと思うよ。原貞たね。

(元女どり書房店主・元井之頭町会副会長・元井の頭住民協議会事務局長)

(文・写真 川井信良)



▲東日本大震災の支援ボランティアに駆け付ける東松島市 仙石線代行バス停にて

(注1)1965(昭和40)年設立。町会のホームページには「井の頭の緑を守り井の頭を心のふるさと」とある。町会長は岩崎菊男さん。

(注2)井之頭新報は、1960(昭和35)年から発行している井之頭町会の町会報。「本誌の目的と使命は」として、「一、本誌はあらゆる社会悪を断平排除し明るい町づくりに誠心誠意寄与せんとするものである。二、本誌は熱血正義の同志とともに破邪顕正、社会公共のため奉仕せんとするものである。三、本誌は一党一派に偏せず、あくまで公平無私公正中立の立場を堅持するとともに政治意識の高揚に努めんとするものである。」とある。



写真 古賀 親宗 (こが ともとりの) 1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを含めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)

「いのきちさん」のホームページができました！更新中！
<http://www.inokichisan.com/>

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
✉ inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。



▲井之頭町会は、地域をよりよく知るための活動を活発に展開。写真は、地域の「マップづくり」で公園を探索中。

よみがえれ！井の頭池 8

かいほり計画の進捗に 周囲の関心は高まるか？

平成25年度のスタートが計画されている井の頭池の「かいほり」。周辺の住民の方々はどう受けとめているのでしょうか。公園の南に隣接する三鷹市井の頭3〜5丁目地区の『井之頭町会』の町会長、岩崎菊男さんにお聞きしました。

「これまでの説明会には、町会役員数名が出席して話は聞いていますが、町の多くの人たちの関心度はまだ低いのが現状です。そもそも『かいほり』って何だか分からない。水を抜いて乾かすために、我々が今すぐできることがあるわけでもない。おそろしく、計画が進んでいけば町会にも正式に何か依頼があるはずだから、そしたら出来る限りの協力はしますよ。あとは、昭和58年にヘドロの除去で水を抜いたとき、近隣の道路で通行止めとか迂回とかいろいろあったから、なるべく不便にならないようにしてほしいですね」

『いのけん』(井の頭公園検定)講座 8

- 問題1 井の頭池の岸に並んでいる桜の大部分を占めている種類は何ですか？
1) 山桜 2) 河津桜 3) 八重桜 4) 染井吉野
- 問題2 浮世絵師の歌川広重が、井の頭弁財天を含む江戸の名所を描いた大作のタイトルは何ですか？
1) 江戸名所図会 2) 武蔵名所図会 3) 名所江戸百景 4) 江戸名所百景



答えは裏の面にあります。

第1回井の頭公園検定も無事終了。受験の申込は414人で、試験を受けしたのは391人でした。びっくりしたのは、難しい問題に関わらず43%の人が3級合格、55%の人が2級合格でした。そこで、今回は正答率が少なかった問題と高かった問題を出します。(提供：井の頭公園検定実行委員会)